

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締まりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、作付時期の価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年度の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、ロシア、米国等で増産となり、世界全体では前年度より73.4百万トン増加（12.0%）し、684.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別にはオーストラリア、インドが上方修正され、EUが下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、米国、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より30.9百万トン増加（5.0%）し、648.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.7百万トン下方修正されており、国別にはロシア、米国が下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、8.7百万トン増加（7.5%）し、125.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、EU、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.9百万トン上方修正されており、国別にはオーストラリア、ロシア、EU、ウクライナの輸出量が上方修正され、米国の輸出量、インドネシア、モロッコの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、ロシア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より35.8百万トン増加（29.7%）し、155.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も24.0%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で5.9百万トン上方修正されており、国別にはロシア、米国、中国、オーストラリア、インド、カナダが上方修正され、EUが下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	596.1	611.0	684.4	1.6	12.0
EU-27	124.9	119.4	150.3	▲ 0.0	25.8
中国	108.5	109.3	113.0	-	3.4
インド	69.4	75.8	78.6	0.2	3.7
米国	49.2	55.8	68.0	-	21.9
ロシア	44.9	49.4	63.7	-	28.9
カナダ	25.3	20.1	28.6	-	42.7
オーストラリア	10.8	13.8	21.5	1.4	55.4
消 費 量	616.6	617.8	648.7	▲ 3.7	5.0
うち飼料用	106.2	94.1	119.7	▲ 3.3	27.2
EU-27	125.5	117.7	129.5	-	10.0
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	41.2	▲ 3.0	9.3
米国	30.9	28.6	33.6	▲ 0.7	17.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿 易 量	111.6	116.6	125.3	1.9	7.5
(輸出)					
米国	24.7	34.4	26.7	▲ 0.5	▲ 22.5
カナダ	19.4	16.1	19.0	-	17.7
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	1.0	86.7
EU-27	13.9	12.3	19.5	0.5	58.9
ロシア	10.8	12.2	16.0	1.0	30.9
アルゼンチン	10.5	11.2	3.5	-	▲ 68.7
ウクライナ	3.4	1.2	10.0	0.5	706.5
(輸入)					
エジプト	7.3	7.7	7.8	-	1.3
ブラジル	8.1	6.7	6.0	-	▲ 10.6
アルジェリア	4.9	5.9	5.6	-	▲ 5.1
インドネシア	5.6	5.2	5.3	▲ 0.3	1.5
日本	5.7	5.7	5.5	-	▲ 3.5
EU-27	5.1	6.9	6.0	-	▲ 13.5
モロッコ	1.8	4.2	3.5	▲ 0.3	▲ 16.5
期末在庫量	127.0	120.1	155.9	5.9	29.7
中国	38.5	41.0	46.3	0.8	13.1
米国	12.4	8.3	19.4	1.6	132.9
EU-27	14.0	10.4	17.7	▲ 0.5	69.8
オーストラリア	4.4	4.7	5.8	0.4	24.2
インド	4.5	6.4	7.2	0.2	12.5
ロシア	2.4	2.3	9.1	2.0	295.7
カナダ	6.8	4.8	6.6	0.1	36.5
期末在庫率	20.6%	19.4%	24.0%	1.0	4.6

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より12.2百万トン増加（21.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より5.0百万トン増加（17.4%）し、33.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.7百万トン減少（▲22.5%）し、26.7百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、11.1百万トン増加（132.9%）と大幅に積み増しされ、19.4百万トンとなり、期末在庫率も32.2%（19.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、米国統計局のデータを反映し、消費量が食用需要を中心に0.7百万トン下方修正された。また、他の輸出国との競争が激しいことから、輸出量が0.5百万トン下方修正された。また、輸入量が0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.6百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度冬小麦の作柄は、優良が3%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では82%と前年度の最終の76%を6ポイント上回っている。また、作付面積は、2008/09年度より1.7百万ha減少（▲9%）し、17.0百万haとなっている。

テキサス州とオクラホマ州南部で干ばつが発生しており、冬小麦の作柄に影響が出ている。その他の主要産地の作柄問題ない。今後の天候に注視が必要である。

2008/09年度の春小麦の作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 9.9%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度21.3%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.2	55.8	68.0	-	21.9
消費量	30.9	28.6	33.6	▲ 0.7	17.4
うち飼料用	3.2	0.4	6.3	-	1426.8
輸出量	24.7	34.4	26.7	▲ 0.5	▲ 22.5
輸入量	3.3	3.1	3.3	0.3	6.5
期末在庫量	12.4	8.3	19.4	1.6	132.9
期末在庫率	22.3%	13.2%	32.2%	3.2	19.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	-	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.70	3.02	-	11.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の作柄

[作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州、2008/09年度春小麦：主要6州）]

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	3	52	27	6	2
	前年度同時期	5	39	37	13	6
	前年度最終	10	36	30	14	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」春小麦の作柄については8月24日現在のデータ、冬小麦の作柄については11月23日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より8.5百万トン増加(42.7%)し、28.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加(30.8%)し、8.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.9百万トン増加(17.7%)し、19.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.8百万トン増加(36.5%)し、6.6百万トンとなり、期末在庫率も24.1%(2.7ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸入量が0.1百万トン上方修正され、この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、無事終了した。2009/10年度の小麦の作付面積について、カナダ農務農産食料省(AAFC)は前年度より0.79百万ha減少(▲7.8%)し、9.40百万haとなると推計している。3月上旬現在、降水量が少なく、作付けに向けて土壌水分が不足している。今後の天候に注視が必要である。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産からほぼ回復し、前年度より7.7百万トン増加(55.4%)し、21.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加(4.0%)し、6.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(86.7%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加(24.2%)し、5.8百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は28.3%(5.7ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫結果を受けて収穫面積及び単収が上方修正されたため、生産量が1.4百万トン上方修正された。ウェスタンオーストラリア州における生産量の増加が、修正分の大半を占めている。また、生産量の増加を受けて、輸出量が上方修正された。この結果から、期末在庫量が0.4百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は終了した。収穫直前の11月の降雨によって小麦の品質低下が発生しており、12月中旬に小麦生産地全般に降った雨によって、さらなる品質低下が懸念されている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース21.5%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.2%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度15.2%)

表-3 カナダの小麦需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	25.3	20.1	28.6 (28.6)	-	42.7	
消費量	9.0	6.3	8.2 (8.5)	-	30.8	
うち飼料用	4.8	2.1	3.5 (3.9)	-	69.9	
輸出量	19.4	16.1	19.0 (17.6)	-	17.7	
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.0)	0.1	▲ 2.6	
期末在庫量	6.8	4.8	6.6 (7.3)	0.1	36.5	
期末在庫率	23.9%	21.5%	24.1% (27.9%)	0.3	2.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.03 (10.03)	-	16.1	
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.85 (2.85)	-	22.8	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (January 26, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース18.0%)
世界の生産量シェア 8位 (2008/09年度 3.1%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度11.2%)

表-4 オーストラリアの小麦需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	10.8	13.8	21.5 (21.4)	1.4	55.4	
消費量	7.4	6.2	6.5 (6.8)	-	4.0	
うち飼料用	4.7	3.5	3.8 (3.8)	-	7.1	
輸出量	8.7	7.5	14.0 (11.7)	1.0	86.7	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3	
期末在庫量	4.4	4.7	5.8 (…)	0.4	24.2	
期末在庫率	27.3%	34.0%	28.3% (…)	0.3	▲ 5.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.80	12.70	13.50 (13.55)	0.50	6.3	
単収(t/ha)	0.92	1.09	1.59 (1.58)	0.04	45.9	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことによる作付面積の増大や天候に恵まれたことによる単収の増加などにより、前年度より30.9百万トン増加(25.8%)し、150.3百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし等の価格高騰により飼料用需要増加が見込まれることから前年度より11.8百万トン増加(10.0%)し、129.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.2百万トン増加(58.9%)し、19.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は7.3百万トン増加(69.8%)し、17.7百万トンとなり、期末在庫率も11.9%(3.9ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量がわずかに上方修正された。また、輸出が順調に伸びていることを受け、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了した。2009/10年度の冬小麦に関し、この冬は降水量が平年よりも少なかったものの、今後の降雨があれば問題ない範囲であり、冬小麦の生育への影響は懸念されていない。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収が増加し、前年度より3.7百万トン増加(3.4%)し、113.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.0百万トン減少(▲73.6%)し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は5.3百万トン増加(13.1%)し46.3百万トンとなり、期末在庫率も43.0%(4.6ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、他の輸出国との競合が激しいことなどから、輸出量が0.8百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.8百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了している。

2009/10年度の冬小麦については、干ばつが発生していたものの、2月下旬から降雨があり、3月1日現在、干ばつの影響を受けている地域は、小麦作付面積の4.8%に縮小している。一方、過度の雨により、小麦赤さび病等が発生している地域もある。また、気温の急激な低下により、冷害も発生している。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている(20%→3%)。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度22.0%)〕
輸出量シェア2位(2008/09年度15.6%)

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	150.3 (151.7)	▲ 0.0	25.8
消費量	125.5	117.7	129.5 (129.1)	-	10.0
うち飼料用	60.2	52.4	62.0 (57.7)	-	18.2
輸出量	13.9	12.3	19.5 (20.6)	0.5	58.9
輸入量	5.1	6.9	6.0 (6.8)	-	▲ 13.5
期末在庫量	14.0	10.4	17.7 (18.7)	▲ 0.5	69.8
期末在庫率	10.1%	8.0%	11.9% (12.5%)	▲ 0.4	3.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.66	26.77 (…)	-	8.6
単収(t/ha)	5.10	4.84	5.61 (…)	-	15.9

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 February 2009)」

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.5%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.3	113.0 (112.5)	-	3.4
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	0.8 (1.0)	▲ 0.8	▲ 73.6
輸入量	0.4	0.1	0.1 (0.2)	-	100.0
期末在庫量	38.5	41.0	46.3 (…)	0.8	13.1
期末在庫率	36.7%	38.3%	43.0% (…)	0.4	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.61	23.72	24.00 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	4.59	4.61	4.71 (…)	-	2.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 February 2009)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.8百万トン増加（3.7%）し、過去最大の78.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（300.0%）し、0.2百万トンとなる見込みである。）

輸入量は前年度より1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン増加（12.5%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.3%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.2百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける2008/09年度の小麦の収穫は、昨年4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の小麦の作付面積は、前年度の2,621万haから2,627万haに増加している。ラージャスターンとハリヤナで、2月に雹が降ったため、小麦に影響が出た可能性がある。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことや、生育期に天候に恵まれたことなどから、前年度より14.3百万トン増加（28.9%）し、63.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.5百万トン増加（9.3%）し、41.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから3.8百万トン増加（30.9%）し、16.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、6.8百万トン増加（295.7%）し、9.1百万トンとなり、期末在庫率も15.9%（11.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、ロシア政府による買い上げの影響などから、飼料用の消費量が3.0百万トン下方修正された。また、輸出量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が2.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の2008/09年度の収穫は終了している。なお、生産量が非常に多かったため、国内における保管倉庫不足が問題となっている。一部の低品質小麦は、屋外で防水シートをかけただけの状態で保管されており、これらは消費されるより廃棄される可能性が高い。

2009/10年度の冬小麦は休眠中であるが、生育を再開した地域もある。天候が望ましく推移したため、ほとんどの地域で越冬条件は良好である。

【貿易情報】 7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.5%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.6 (78.4)	0.2	3.7
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.2 (0.5)	-	300.0
輸 入 量	6.7	1.9	0.0 (0.0)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	0.2	12.5
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.3% (…)	0.3	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.15 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.79 (…)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (26 February 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.3%） 輸出量シェア4位（2008/09年度12.8%））

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	63.7 (63.7)	-	28.9
消費量	36.4	37.7	41.2 (…)	▲ 3.0	9.3
うち飼料用	14.1	15.1	17.2 (…)	▲ 3.0	14.3
輸 出 量	10.8	12.2	16.0 (15.3)	1.0	30.9
輸 入 量	0.9	0.4	0.3 (0.2)	-	▲ 31.8
期末在庫量	2.4	2.3	9.1 (…)	2.0	295.7
期末在庫率	5.0%	4.6%	15.9% (…)	3.9	11.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	-	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.39 (…)	-	18.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (26 February 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少や生育不良などから前年度より7.9百万トン減少（▲48.5%）し、8.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度よりわずかに減少（▲1.0%）し、5.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから7.7百万トン減少（▲68.7%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.1百万トン減少（▲50.0%）し0.2百万トンとなり、期末在庫率も1.7%（0.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は終了した。主要産地での激しい干ばつによる播種の遅れ、作付面積の縮小、11月の霜害等の影響に加え、施肥量の減少があり、生産量は大幅に減少する見込みである。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため停止しており、手続きの再開時期は未定である。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行っており、長期化も懸念される。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことや、生育時に天候に恵まれたことなどから、前年度より12.0百万トン増加（86.3%）し、25.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加（11.6%）し、14.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから8.8百万トン増加（706.5%）し、10.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.6百万トン増加（104.6%）し3.1百万トンとなり、期末在庫率は12.8%（2.0ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、飼料用小麦を中心として輸出が伸びていることから、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了した。国内における保管庫不足が問題となっている。一部の低品質小麦は、屋外で防水シートをかけただけの状態で保管されており、これらは消費されるより廃棄される可能性が高い。

2009/10年度の冬小麦は、冬季の休眠が終わり、生育を再開した。天候が好ましく推移したため、播種のやり直しは非常に少なくなると見込まれている。

【貿易情報】2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア8位（2008/09年度 2.8%）

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）
（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.3	8.4 (8.5)	-	▲48.5
消費量	4.9	5.1	5.1 (5.1)	-	▲1.0
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	11.2	3.5 (3.5)	-	▲68.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	0.3	0.3	0.2 (0.3)	-	▲50.0
期末在庫率	2.0%	1.8%	1.7% (3.3%)	-	▲0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.29	5.76	4.20 (…)	-	▲27.1
単収(t/ha)	2.88	2.83	2.00 (…)	-	▲29.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (26 February 2009)」

（世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 8.0%）

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	25.9 (25.9)	-	86.3
消費量	11.7	12.9	14.4 (…)	-	11.6
うち飼料用	2.1	3.1	4.4 (…)	-	41.9
輸出量	3.4	1.2	10.0 (9.2)	0.5	706.5
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲69.7
期末在庫量	1.4	1.5	3.1 (0.0)	▲0.5	104.6
期末在庫率	9.5%	10.8%	12.8% (…)	▲2.4	2.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.05 (…)	-	18.5
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.67 (…)	-	56.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (26 February 2009)」